

地域観光プランニングカレッジ —山口県・長門湯本温泉×深川萩焼—

2017/8/21, 9/14, 9.24-27

実施要領

主 旨

日本建築学会に設置された地域観光プランニング小委員会では、研究者と実務者が議論し、公共性や公益性を重視してきた都市計画・まちづくりの方法や進め方と、事業性を重視してきた観光事業の方法や進め方とを融合した「新・観光まちづくり」のあり方を研究してきました。この知見を、観光に興味のある学生や、地域づくりの専門家、地域で観光に関わるビジネスに関心のある事業市民のみなさまとともに学ぶ場として、「地域観光プランニングカレッジ」を開催します。

その第1回目のフィールドは山口県長門市の長門湯本温泉です。本地区では現在、温泉地の再生にむけて、公民連携で温泉地の環境やあり方の大改造を進める事業が真っ最中です。まちぐるみの景観形成、外湯事業の創出、川床の設置・運営、リノベーション、周辺の観光資源との連携、そして星野リゾートの誘致など。また、これらの実現に向けて社会実験を実施しつつ進めています。この事業のキーパーソンと一緒に、新しい観光まちづくりのあり方を考えてみませんか。

本カレッジでは、長門湯本温泉地区に隣接する三ノ瀬地区の深川萩焼とその窯元集落を重要な地域資源として設定し、長門湯本温泉と深川萩焼のWin-Win関係を構築するプロジェクトを提案します。

概 要

期 間：（オンライン）平成29年8月21日（月）、9月14日（木）
（長門湯本温泉）平成29年9月24日（日）～9月26日（火）、27日午前解散

対 象 地 区：山口県長門市・長門湯本温泉地区 三ノ瀬地区（深川萩焼の里）

会 場：作業会場：長門湯本温泉内 会場（調整中）
宿泊施設：長門湯本温泉内 旅館等（調整中）

講 師：川原晋（首都大学東京）、泉英明（ハートビートプラン）、岡村祐（首都大学東京）、伊藤弘（筑波大）、姫野由香（大分大）、泉山壘威（東京大）、小林剛士（山口大）、宋俊煥（山口大）、佐野浩祥（金沢星稜大）、内海麻利（駒沢大）、海津ゆりえ（文教大）、永瀬節治（和歌山大）、永野聡（三重大）、西川亮（日本交通公社）、石川宏之（静岡大）、

ス タ ッ フ：山崎嵩拓（東京大）

最終発表会：9月26日（火）※地元の方を招いて行う予定

主 催：日本建築学会 地域観光プランニング小委員会

共 催：長門市（予定）

後 援：

.....

参 加 人 数：学生約12名、講師＋スタッフ 14名前後
地元 事業キーパーソン有志 6名程度

問 合 せ 先：岡村祐（首都大学東京） okamura.u@gmail.com

.....

オンライン・ミーティング

事前 MTG① 8月21日（月）17:00～ コア会場；建築会館

事前 MTG② 9月14日（月）17:00～ コア会場；建築会館

集合時間・場所

集 合 日 時：9月24日（水） 12:30（受付12:00～12:30）※時間厳守の事

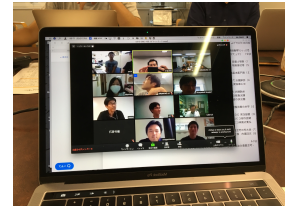
集 合 場 所：長門湯本温泉内会場（未定）、または、山口宇部空港 or 宇部駅に集合しレンタカーで移動

地域観光プランニングカレッジ@長門湯本温泉 スケジュール

	全体スケジュール	詳細・備考
8/21 MON	17:00~17:10 挨拶と趣旨・課題説明	本日の概要（川原）
	17:10~17:20 参加者挨拶	学生、教員
	17:20~17:45 ミニ講義：長門湯本温泉概要	→川原
	17:45~18:30 地域観光プランニング講義 講義 1 講義 2 講義 3	地域観光プランニングの概念の進め方のアウトライン（川原） 観光資源の観光対象化、ブランド化（伊藤） 観光地の捉え方（ライフサイクル）と観光化の推進とコントロール（姫野）
	18:30~18:40 学生の事前調査課題の提示	川原
	18:40~19:10 質疑応答	
	19:10~19:20 各大学の学生調査内容決定	
	19:20~19:30 次回案内	
9/14 THU	17:00~19:30 学生調査成果共有・中間講評 ・首都大学東京 ・和歌山大学 ・山口大学 ・大分大学 ・ ・ ・	
24 SUN	13:00 集合：	作業会場？
	13:30~14:00 ガイダンス	
	14:00~16:00 まち歩き	湯本 60 分＋三ノ瀬 60 分
	16:00~17:00 学生ファーストインプレッション	発表形式：模造紙、地図ベース
	17:00~17:35 事前課題発表	（5 班×7 分）
	17:35~18:00 地元リレープレゼン？	5 テーマ×5 分
	19:00~ 懇親会	懇親会会場： →適宜入浴、宿泊施設移動
25 MON	9:00 学生集合	作業会場
	9:00~10:00 学生提案・発表	
	10:00~10:30 グループ編成	
	10:30~15:00 グループワーク・調査	
	15:00~17:00 ピンナップ	→提案の方向性確定、模造紙、PPT 化
	～(徹夜) プレゼン・提案まとめ作業	→イラレ作業、資料スキャン、図面、スケッチ等、 PPT 作成（食事・入浴・仮眠適宜）
26 TUE	0:00~ 9:00 プレゼン・提案まとめ作業	
	9:00~11:00 エスキス	【昼食準備：運営側】
	11:00~14:30 会場設営移動・PPT リハ	
	最終発表会	会場：市民活動センター（STIC ビル）
	14:30 開趣旨説明	
	14:45~15:45 提案の発表＋質疑応答	（発表 12 分、質疑 8 分）20 分×4 班
	15:45~17:30 ディスカッション	終了後、会場片付け →入浴会場（任意）
	19:00~ 懇親会・修了証書授与	→懇親会会場：
27 WED	10:00~11:00 清掃・撤収・引渡	宿泊 及 作業会場
	12:00 頃 解散式	→データ回収：ai, PDF, PPT

■メンバー（敬称略）

筑波大；伊藤、M1 藤井／金沢星稜大；佐野／東大；山崎、泉山／首都大；川原、岡村、B4 甲田、M1 岩間、D1 劉／静岡大；石川／三重大；永野／和歌山大；（学生）吉岡／山口大；小林、M1 田添／大分大；姫野、B3 松岡、M1 西／長門市役所；松岡／JTBF；西川



■講義1 地域観光プランニングの概念と進め方のアウトライン（首都大 川原）

- ・観光まちづくりの多様性の俯瞰
- ・自然・文化環境や多様な産業を含めた地域の総合力に支えられる観光像としての「地域観光」の設定。その実現手段やプロセスデザインとしての「地域観光プランニング」
 - ①. 公共・公益性と事業性を融合する観光政策
 - ②. 地域資源の観光対象化と「地域観光」への展開方法
 - ③. 観光地の持続的な価値をうみだす
 - ④. 環境管理や観光化コントロールを含む観光地マネジメント
 - ⑤. 公民連携による観光まちづくり事業の推進プロセスや体制
 - ⑥. 地域計画分野が観光地づくりに果たせること
- ・従来の計画論に比べて、特に、プラットフォームの設置が重要。公民を含めたビジョンの共有後は、社会実験しながら事業性の検証、担い手の検証をしていく。

■長門湯本温泉の概要（首都大 川原／資料作成；泉・川原）

トップ10を目指すコアコンテンツ→川、湯、萩焼
深川萩窯元の若手作陶家を考える課題、目標など（インタビュー紹介）

■講義2 地域資源の観光対象化、ブランド化（筑波大 伊藤）

- ・観光とは記号の消費活動。記号の生産・流通の管理≡観光計画
観光客の体験とどう関係させるか、記号にどう意味を持たせるか
- ・観光は空間を伴う→活動の創出と地域づくり
- ・遺産の背景を観光資源化して価値を伝える
資源の発見→資源の共有→地域と観光の目標像設定（観光をどう位置づけるか ex.基幹産業化・他産業との関わり）→観光対象化（「資源の特徴・観光活動との関係」「イメージ、メディアによる外部への価値伝達」「空間と情報の整備」）→新たな資源の発見（関連資源の発見、複数資源の一体化）→資源と地域の関係づくり（資源周辺環境の整備・圧力回避）→地域ブランドへの展開（資源と地域のブランド化による相乗効果、資源の一元化・発信・更新+地域イメージの定着・発信）

■講義3 観光地の価値の盛衰において各地域ではどのような取り組みをしてきたのか（大

分大 姫野)

①観光地の変遷を説明する仮説

・バトラーのライフサイクルモデル（探検期→関心連鎖期→開発発展期→成熟期→停滞期→再生 or 衰退）

・安島博幸の観光地の価値モデル（消費されやすいが興味関心を引きつける精神的な価値＋消費されにくい風土や環境による身体的な価値）

→バトラーの「停滞期」以降を安島氏の二つの価値で補う・・・精神的価値の補強

・Wolfe のサイクル曲線、小沢のサイクル曲線などで地域を分析、診断しながら進める

②どのような取り組みがいかなるタイミングで導入されたのかの事例分析

・別府）衰退していく中で新規イベント実施や団体発足した 80～90 年代の模索期を経て、04 年以降は観光戦略や計画を策定した再生期に向かってきた

・湯布院）別府と同じようにイベントの新規実施を行い 80 年代には発展期を迎える。その後は観光基本計画を策定するなどの取り組みで課題の解決を図っている。

→地域問題が顕在化してくる停滞・衰退期に様々な取り組みが出てくる（別府は精神的価値、湯布院は両方）

■質疑応答 （略）

松岡さんにご活躍いただいた！

■学生事前調査課題分担

○現状把握・お宝さがし）長門湯本や萩焼の歴史、周辺広域観光の資源

長門湯本温泉の観光地のライフサイクルの整理と、今後の振興アイデア

イベント等精神的価値につながる取組みから身体的価値につながる取組みへの関係等

→大分大 姫野研

三ノ瀬地区の歴史文脈の整理からの今後の振興アイデア

→筑波大 伊藤研

長門市周辺の広域観光の現状調査から課題、ポテンシャルを抽出

→山口大 小林研

○ニーズ把握）これからの温泉地の楽しみ方・あり方、萩焼など陶器、陶芸ビジネスのありかた。（他事例をもとに）

陶器の新たな販売戦略事例の整理（サテライト、ブランディング、コラボ…）

例）有田焼の…

→決まっていなかったが、首都大 川原研？

（伝統）工芸の里における、観光手法を活かした産業振興事例の調査（ツアー、体験プログラム…）→首都大 岡村研、川原研

陶器の公共空間の活用、デザイン事例の調査と萩焼での可能性抽出

→和歌山大 永瀬研

深川萩の課題、目標など（若手作陶家へのインタビューより）

深川萩窯元の若手作陶家の考える課題、目標など

首都大 川原 (7/28 インタビューのまとめ)

■深川萩5窯元の若手(30~40代) 下線の方にインタビュー

- ・ 善右衛門さん／田原崇雄さん／坂倉正紘さん／坂田さん／庄司さん
- ・ 崇雄さんと正紘さんのところは、職人を2、3人かかえて窯元を経営。他は家族経営。釜元としての経営と、作家としての活動がある。

■それぞれがアーティストで多様性が特徴。

- ・ 深川萩という共通ブランドがあるようでない。(土が一緒なぐらい…。) 深川萩ブランドづくりの必要性についても色々な考えあり。
- ・ 高級ブランドとしての作家作品と、おみやげ品の間ぐらいの、あたらしいブランドを考えている人もいる。若手の目標はいろいろのようです。

■萩焼の販売の仕方

- ・ 作陶家の刻印がつけられる「作家もの」は、百貨店などの催事で展示し販売をするのが中心。窯元の刻印で販売する釜ものの品は、比較的安価で土産品などで販売。
- ・ 百貨店自体も衰退傾向、茶器の販売も頭打ち。作品発表、販売の場づくりなどにおいて、新たな販売戦略が必要だと考えている。
- ・ 「cafe&pottery 音」はそのひとつのチャレンジ
- ・ 有田焼では バイヤーの主導で、カレー皿、焼酎とっくり、ラーメンどんぶり、などやっている。

■商業用食器として使われにくい萩焼(産業としての萩焼の弱さ)

- ・ 磁器にくらべて、萩焼器は水を吸いやすく、長く使うと染みしてくる。商業利用には使い古していると思われがち。また、磁器にくらべて柔らかいので割れやすい。したがって旅館や店舗などで使われにくい。屋外では黒ずんでくる。
- ・ 一方、冷めにくい、触っても熱くない。味が出る陶器としての価値もある。旅館などで使いやすい器、産業として残っていくための改良も今後は必要と作陶家の皆さんも考えている。

■萩焼の新たな利用について

- ・ タイル、サイン看板などは、茶器の高級品と同じぐらいの手間と値段がかかる。型をつくり文字をほるだけとなれば、職人仕事として成立?
- ・ B品、かけら品などの利用は、刻印の部分が出なければOK。ただ、使うにしても、ブランド力をさげない取り組みが重要。また、釉薬はガラスなのでわたしたちは鋭利であぶない。その処理ができるならよい。

■三ノ瀬集落のツアーについて

- ・ 文化財になっている古い窯もあるので、限定ツアーなどやってもいいという方もいる。視察ツアーは、何年かに一回、無償で受けている。

■その他

- ・ 使っているシーンをみせることは大事だと思う。食事と萩焼をセットで売り出すようなこともレストラン八芳園の企画としてもすでに行われた。
- ・ 大谷山荘には深川萩のギャラリーがあるので、お客さんが買ってくれる。おみやげ的な陳列では萩焼は売れないのではないかな。